

# 町小だより

令和2年  
1月14日  
No. 644  
御免町小学校

## 心を開いて

校長 藤井 聡

新しい年を迎え、学校には、明るい子どもたちの声が響いています。始業式の朝には、多くの子どもたちが、「校長先生、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。」と、自ら挨拶をし、校舎に入っていました。素敵な子どもたちです。

本年も、保護者の皆様、地域の皆様、関係の皆様にはお世話になります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

子どもたちが学校で学ぶことはたくさんありますが、中でも大切なことが良好な人間関係を築く術を学ぶことです。実際に子どもたちが抱える悩み事の多くが、人間関係がうまくいかないことに起因しているのもこの術を身に付けていないためです。

人間関係が良好な学級には、安心感が生まれます。この安心感が、学級を活性化し、意欲的に学習や活動に向かうことのベースになります。学級内にユーモアを理解する雰囲気があり、子どもたち一人一人のよさを互いに認め合えるような学級には笑顔があふれ、目標に向かって力強く前進するエネルギーが満ち溢れます。また、友達が困っているときや失敗をしたときにそれを助け、励ましあえるような学級では、自主性や主体性が芽生え、向上的な雰囲気が生まれます。

このようなプラスの人間関係を構築する時に「鍵」になるのが「開かれた人間関係」です。「開かれた人間関係」をつくることで、次のような姿が見られるようになります。

- ① 自分の思いや考えを表出しても否定されないため、安心してものが言える。その結果、発言や挙手が増え、授業が活性化される。
- ② 友達の良さを認め、また、自分の良さも認めてもらえるため、自信が生まれ、学習や活動に対して意欲的になる。
- ③ 友達を見つめることにより、その変容が分かる。とくに、立場の弱い子やおとなしい子も学級の中に居場所があるので、所属感が高まる。
- ④ 教師と児童の信頼関係を深めることにつながり、問題の早期発見、早期対応や一人一人の見取りに役立つ。
- ⑤ 子どもたちに考えさせるべき問題が発生した際、形式的な意見ではなく、本音で話し合い、改善策を見出そうとするようになる。

このような姿が見られるようになるためには、教師が明確な方針をもち、児童、保護者と力を合わせていかなければなりません。そして、『心を開いて』語り合うことが重要です。

親と教師が語り合う機会は多くないかもしれませんが、電話や連絡帳等を通じて対話できるよう努力してまいります。一方、親と子・教師と子が『心を開いて』語り合うチャンスは日常生活の中に多くあります。

3学期は仕上げの学期です。そして、来年度に向けて準備を進める学期です。私たちも『心を開いて』子どもたちに語り掛け、有意義な学期になるよう努力してまいります。